物流ニッポン　7月17日号

安定供給モデル確立へ

アイメイドアルファ　対人関係能力を確認

日本語学校運営とともに、特定技能外国人の紹介事業を展開するアイメイドアルファ（荻野健社長、東京都新宿区）は、外国人ドライバーの安定供給モデルの確立に向け、紹介事業の拡大を図っている。トラックドライバーとして日本の物流事業者への入社が内定している9人のうち4人が外免切り替え試験に合格し、10月からの各内定先での実務に向けて着々と準備を進めている。

1期生は9人で、既に中京陸運（石川繁夫社長、名古屋市熱田区）、東海エリアを中心に食品輸送や倉庫事業を行う物流事業者、特積み大手などへの入社が内定。2025年10月に来日し、アイメイドアルファが運営する日本語学校で勉強する傍ら、飲食店などでアルバイトをしながら日本での生活習慣を身に付けている。

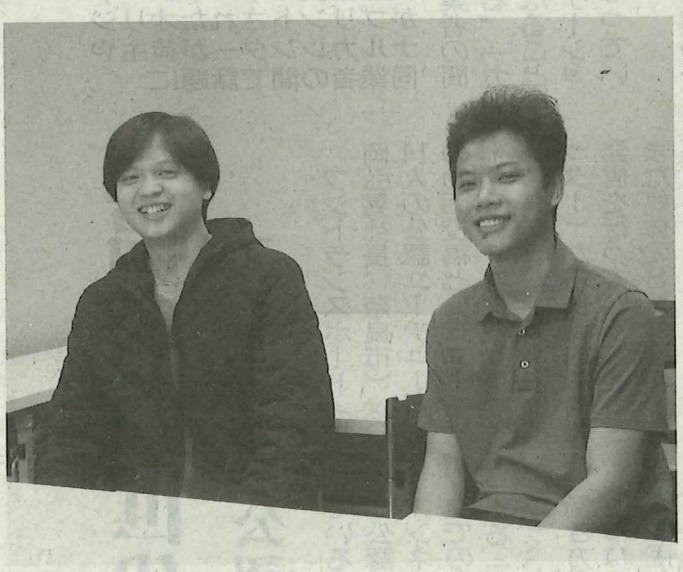
同社では人間性を特に重要視する。内定後、来日してから日本語学校在学中に運送会社で働くことに問題がないか、本人の対人関係能力を十分に確認し、問題があると判断した場合には他の業界を勧め、内定先には他の人物を紹介するなどの措置を取る。

通常の授業のほかに、1カ月に1回、小旅行や習字学習、着物の着付け体験などのアクティビティーの場を設け、各々のホスピタリティーなどをチェックしたり、日本の生活になじめるようにしたりする。

日本語でのコミュニケーション能力も重視。荻野社長は「安全運転を担保するには最低でもN3レベルを確保したい。セールスドライバーであればN2レベルのコミュニケーション能力がないと、運送会社としてお客さんのところには連れていけないだろう」と語る。

特定技能1号の取得基準はN4レベルだが、1期生で外免切り替えに合格した4人は既にN3レベルに到達しており、意思疎通に支障のないコミュニケーション能力を獲得している。

（加藤紀之介）



運送会社への入社が決まったミャンマー国籍のヤワエさん（左）、チョーさん

特定技能外国人を受け入れる事業者から委託を受け、外国人が安定的かつ円滑に活動できるようサポートする登録支援機関。9日時点で1万1448件が登録されており、物流業界向けにも多くの企業・団体がサービスを展開している。いずれも各個人や受け入れ企業に独自の視点で寄り添う。